

森づくり最前線

伊豆森林管理署

河津森林事務所

首席森林官 佐藤 将道

私が勤務する河津森林事務所は、早咲きの「河津桜発祥の地」として全国的に知られ、毎年2〜3月に開催される桜祭り期間中は100万人以上が来訪するほどの賑わいがある河津町に所在しています。

管轄区域は、伊豆半島を南北に分断する天城山系の南東部に位置する河津町、東伊豆町及び下田市であり、約4,700haの国有林と200haの官行造林地を管理しています。

森林事務所が管理する国有林は、明治維新以前は徳川幕府の所領に属し、その後内務省所管となり、明治22年に御料地に編入されました。昭和22年の林政統一により河津営林署が設置され平成4年には天城営林署との統廃合が行われ、平成13年8月まで河津森林経営センターが置



河津町内の民家にある河津桜の原木

かれていました。同センター廃止後は、それまで営林署等（昭和から平成に変わる時代の職員数約100名）が担ってきた地域の窓口や地元との調整、並びに旧営林署管轄区域の森林事務所の面見役としての機能を当事務所が担い、地域に親しまれる国有林としての管理を行っています。

標高1,000mを超える太平洋に面した天城山系は、年間4,000mmを超える多雨地帯で、稜線部分にはブナを中心とした天然林が広がり、山頂から海岸線まで数十kmと急峻な地形となっています。標高800m以下にはスギを中心とした人工林が造成され、現在では成熟期を迎えています。また、国有林内には昭和天皇在位50年を記念し、天皇陛下にゆかりの深い森林を中



国有林眼下に広がる相模湾と伊豆大島

心に、約1,200haの「昭和の森・天城山自然休養林」が設定されています。休養林内には64種類の野鳥観察が可能と言われる「野鳥の森」も設定され、初心者でも安心なハイキングコース等が整備されています。このように、森林レクリエー



民有林関係者とともシカ防護柵現地検討会



労働基準監督署と合同安全パトロール

シヨンの場として、比較的首都圏から近く、温泉や海水浴などの旅行のついでに手頃に利用できることから、多くの観光客が立ち寄る国有林でもあります。過去には架線集材が主流で皆伐・再造林施業が進められてきたこの地域も、近年は車両系による列状間伐、小面積分散伐採など低コストで効率的な作業システムによる多種多様な森林づくりが求められ、二ホンジカ対策や労働安全の確保と真つ向対峙しながら悪戦苦闘の毎日です。昨年4月には「ユネスコ世界ジオパーク」として認定され、観光客も増えつつあるなかで、訪れる方々に楽しんでもらえるような森づくりを目指して研鑽していければと思っております。



東伊豆町文化財指定のシラヌタ大杉

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027)210-1158
FAX(027)230-1306